



皮膚科診療でのときめき

飯島 茂子
はなみずきクリニック

皮膚科診療中に、ワクワク・ドキドキすることがありますか？たとえば、患者さんに新しい薬剤を投与して、その後初めて診察するときでしょうか？初めての手術法を行って、翌日にガーゼ交換をするときでしょうか？

私は、パッチテスト(patch test: PT)をして72時間後(Day 3)に貼付部位を覗き込むときです。当院では、48時間後(Day 2)は患者さん自身でユニットを剥がし、マーキングを行い、写真を撮ってもらっています。Day 3に患者さんが診察室に入室すると、私:「昨日(Day 2)のPTの結果はどうでしたか?」、患者:「何も出ていません」という会話をすることがほとんどです。しかし、Day 3の貼付部を確認すると(そのときワクワク・ドキドキします)、私は「○番が赤くなっています。陽性ですね」と喜んだり、「何も赤くなっていません。いまのところ陰性です」と残念がるのです。

去年はコロナ禍であったにもかかわらず、1年間に合計180件ものPTを当皮膚科外来で行いました。平均して2日に1回はワクワクが訪れる計算になり、PTの件数が増えるほどワクワクの回数は増えることになります。

PTの楽しさは、PT前の準備やPT後の治療・指導にもあります。PT前は、湿疹・皮膚炎で来院した患者さんに対して、PTの対象かを見極め、そして対象なら、どのような試薬を使ったらよいのかを考えます。PT後は、結果が陽性であれば、陽性であっ

た成分・製品を使わせない指導だけでなく、代替品を提供するにはどうすればよいのかを考えます。PTが陰性であれば、当該患者で接触皮膚炎を除外してよいのか、貼付した試薬が正しかったのかを考えます。これらは、各々の患者に時間のかかる作業ですが、患者さんの湿疹・皮膚炎を治すためですので、クリニックで十分やっていると確信しています。

当院では、PTの必要性や方法を説明するのは私です。誠心誠意説明をして、患者さんが納得し、PTを受けてもらえるとわかった瞬間も嬉しいです。また、製品(シャンプーやファンデーションなど)を希釈したり練ったりする作業や、試薬をユニットに載せる作業はスタッフにお願いしているので、スタッフにはたいへん感謝しています。

まだ記憶に新しいWBC(World Baseball Classic)で、侍ジャパンが戦ったメキシコ戦やアメリカ戦は多くの国民にワクワクとドキドキを与えました。そして「決して諦めない」ことを教えてくれました。私たち皮膚科医もPTでワクワクとドキドキを経験して、湿疹・皮膚炎患者の完治のために諦めない態度をもつことが必要ではないかと思います。